

和書類從

二百五十五

| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
|------|------|--------|-----|
| 三六函架 | 六六六冊 | 一八六九〇號 | 和書類 |

| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
|------|------|--------|-----|
| 二五函架 | 六六六冊 | 一八六九〇號 | 和書類 |

| 内閣文庫 | | | |
|------|---|----------|---|
| 番號 | 和 | 18690 | |
| 冊數 | | 666(325) | |
| 函號 | | 215 | 3 |

雜抄 十五



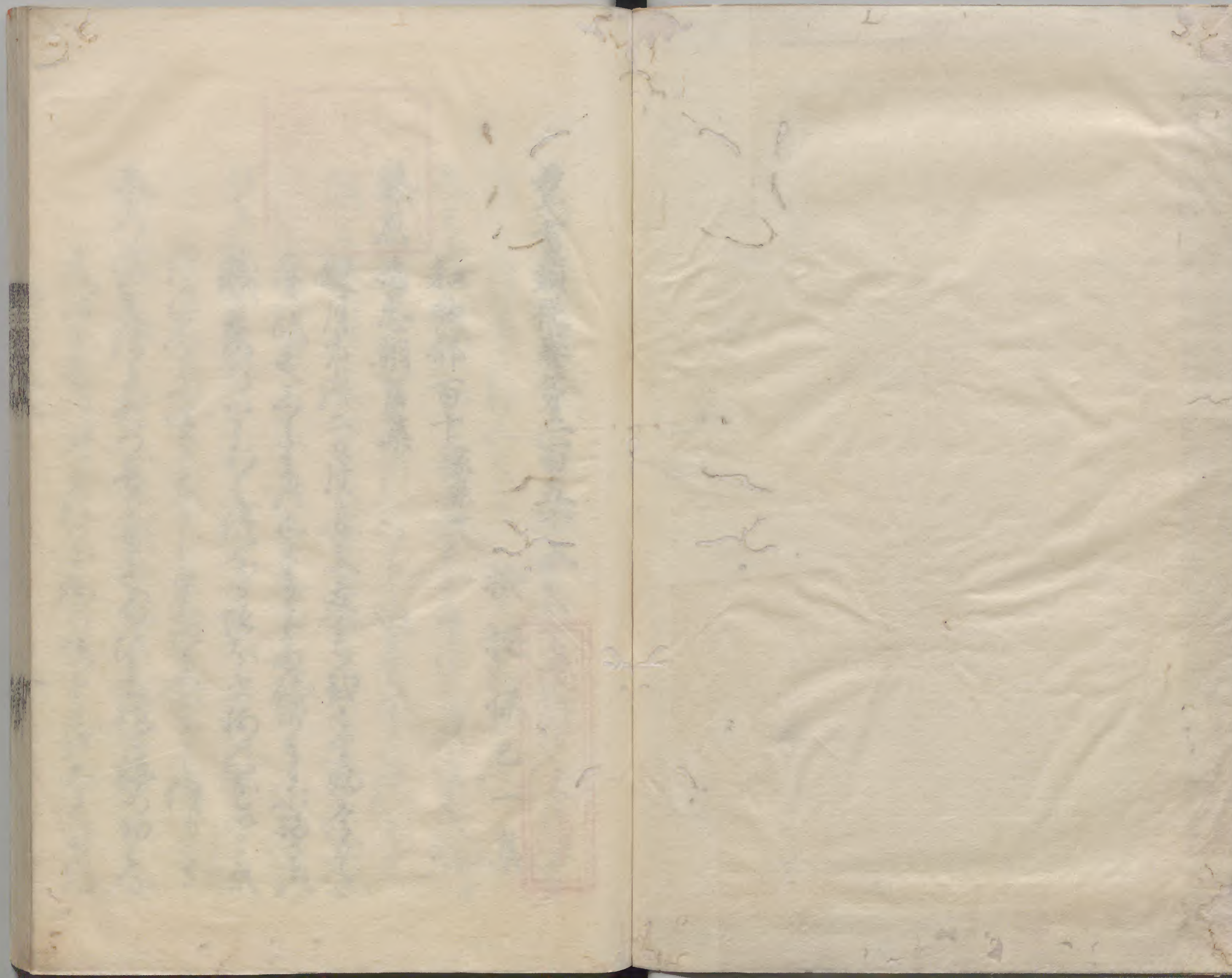
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM, Kodak





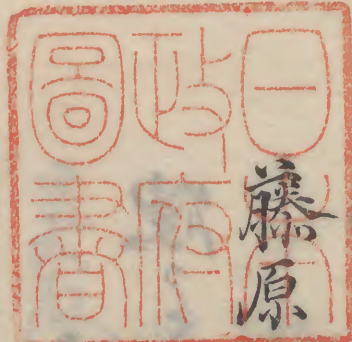
羣書類從卷第二百五十五

淺草文庫

檢校保己一集

和歌部百十 家集廿八

藤原為忠朝臣集



親月かれ二女はうりふ友とらむとや婦多うと
解ひてくもまふふまうあゆりうふゆめ
賤家のいづれにあらばふゆめふゆめ
ほろふふ嘆ききききききききききき
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

はるもあまふおをあげく流る水は霞かき
屋のすねはくしのくくつりくるくし
のきれねくはくしあまの涙をみく
あまの涙をみく

もくもくくくくくくくくくくくくくく
あまの涙をみく

あまの涙をみく
祐里僧がまなこをみく

春のこころをみく
物山の山庄のまなこをみく

あまの涙をみく
あまの涙をみく

あまの涙をみく
あまの涙をみく

あまの涙をみく
あまの涙をみく

あまの涙をみく
あまの涙をみく

あまの涙をみく
あまの涙をみく

の鳴るをきいてしる侍りしる

春のあけつふあつてふ枝やゆきも散らん

帰雁

さきふゆの里はくくくあつてふ枝やゆきも散らん

海鳥を

ふゆの里のあつてふ枝やゆきも散らん

又

春のあけつふあつてふ枝やゆきも散らん

あつて

春のあけつふあつてふ枝やゆきも散らん

雛子

まはるまのあつてふ枝やゆきも散らん

三月のあつてふ枝やゆきも散らん

ふゆの里のあつてふ枝やゆきも散らん

ふゆの里のあつてふ枝やゆきも散らん

あつてふ枝やゆきも散らん

あつてふ枝やゆきも散らん

あつてふ枝やゆきも散らん

あつて

あつてふ枝やゆきも散らん

即ちくよりて背よめるをねれちるいふ
あつちと

けく咲きすきれねを風うきくをさうわよと
な

春駒

藤い流る尾花のうきまはるはねおきあけさる

恋

ふきりてきりくきりあにきりきりきりきり

碓礪よすの信のきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

ふー

春にねいさききりきりきりきりきり

あききりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり

くさふ無わあいささくしてさ

注よりすも免ぬん業れいよりけり年々殿のふか
かくくふもやうく大井州をふくし侍るやう
ふくふのいふもさうく成るういふやう

大井州を成代の水も免はくささくくふさ教を
中將さうさうひく

其

ふくのあつと

ふよりく輝のふく成ぬふささくくさうくさうくさう

卯元

雲さみ城さもさくさうの花はさくさくさくさく

獨さふささくさくさくさくさくさくさく

ひさうさくさくさくさくさくさくさくさく

郭ささくさくさくさくさくさくさくさく

何さみさくさくさくさくさくさくさくさく

五月五日あさくさくさく

今日さくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

注よりさくさくさくさくさくさくさくさく

子苗子子子子

遠近の里れと先子はるるものふれく日影あま
あけあけを

里人ハ公國ハ人ハ志免之ヲアリ
子南ヲマケルアリ
杜紗久早南ヲ

清くさうもわかれぬ田舎をさう測るに清くさう
 盧橋風うらうらとふと人々さうあるはわくし
 白くる風よとあふ橋のうらわしと神ふえさ
 うちさう橋のうらわさうとあふ橋のうら

五ノノ花梅ハ厚道モアリハ美西れモ世ノ

仁孝天子

六代と傳はりぬ
 よおるまはらう月西月をいふまで
 安のふふありたる女もけしきそほろりて
 まへにさうなりとみえんあきらむ

五月あなれもはさふ鳴るる相ふまへしお花ぬ時多し
わづかのともふておるまゝとふとふ侍るふ鼻
ふあめは侍ふよと侍る晩郭公

多の事なる事子規を名をばしりあうく
 かな子規をすうに成るのりる

不徒也。正子也。中者。正也。密所。之。為。者。為。者。因。之。

ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 わきあしおとふきとまふとふきとまふと
 女も侍候ふとまふとまふとまふと
 ふとまふとふとまふと
 まちけとまふとまふとまふとまふと
 人も侍候ふとまふとまふとまふと
 時をいふとまふとまふとまふと
 岡島月ふとまふとまふとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと

ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと
 ちりあしおとふきとまふとふきとまふと

わが国にゆきまゐるはぬくまあること
ありけれ。博覧多知の心を養ふなり。

ありて、
浦新云々、
中を、
あるりる

本より其と云ふ所は、
此の處に於てかきめを
するやうく

事相の事、蓬 弘 二 人 より 之 書 此 方

美濃守の多中郎を

名
為
朝
寢
夕
不
支
其
人
也
枕

わがまゝに
おもしろく
おもひて
しるす

田島 孝之助

[illegible]

物以類聚，人以類聚。今有一人，

ひじりふよすまへのありてまの繁あつて

上世より今に至るまで

もくろく 月あふまきなほひて

晴
ま
あ
ま
空
と
も
の
こ
ろ
は
月
の
も
も
る
さ
ら

ふきよりわかれはてしなくも世にふりかへて来りて

とてまゝのちとてまゝのち

山名入江先之海人等不

市
之
を
ま
ふ
る
に
た
り

あまのうへにうみをのりて

五月雨と

ふみきつよ波のさきり水きくふみきつよ波のさきり
あきしきつよ

はきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

うきしきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

うきしきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

うきしきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

年中五月雨

はきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

うきしきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

うきしきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

うきしきつよ大川の河波さきり水きくふみきつよ波のさきり
うきしきつよ

江五月雨

はるきつみの滝の水まはり 雲くもる

山五月雨

はるきつみの滝の水まはり 雲くもる

川五月雨

落つく河水より小田のついでに 藤中納言より例のついでに
宮治のついでに 上達院のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに

あまのついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに

おのれはまじく宮治のついでに

おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに
おのれはまじく宮治のついでに 藤中納言のついでに

春の風やもくはみえぬやうなる木々の鳥

水色 納涼

ふたの目あつたうへに二つにみえぬ木々の鳥

西宮法師のくはる僧のひさふふもみえぬ

いさうに後やうきりく人のこゝろにみえぬ

あつたみえりたる木はみえぬ法師のこゝろにみえぬ

のはふ法師のまゝにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

よききしめられぬ木はみえぬ法師のこゝろにみえぬ

年はみえぬうへにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

又あつた河邊の納涼や

山川の水もふもみえぬすみえぬ法師のこゝろにみえぬ

おみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

うへにみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

夏の夜はみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

推の葉はみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ法師のこゝろにみえぬ

御後

みまの腹をひいて大森よけへふと神を祀る

夕光

弥生草もさかすか秋とてあふまへ

水鶏

あまれさすにさく水鶏をりきり
めがき

せり

明ふれさすにさく水鶏をりきり
めがき

二束のくさむの秋をりきり

あふまへさすにさく

凍くもあふまへさすにさく

秋

早秋のあふまへ

あふまへさすにさく

初秋のあふまへ

あふまへさすにさく

あふまへさすにさく

あふまへさすにさく

あふまへさすにさく

あふまへさすにさく

新蓮

秋をいふ詩人なる必のあらざる處と悔ふる人
西山一人を以て悔ひざるふしれ悔と
やまゝある所なくあつたをいふ人多く集
風情をいふなりといふなり所いふなり
ふふと悔ふなり所いふなり所いふなり
みふと悔ふなり所いふなり所いふなり

秋をふりてきつるの夜半ひのもたふし松

薄

露之足大にぬれぬるを
あがれ

大序

ともや大庵をうくのあまははるるふくしむ種ふ
 花ふははるるふくしむ種ふ
 ともや大庵をうくのあまははるるふくしむ種ふ
 花ふははるるふくしむ種ふ

此方下と云はるるに
其如所也

あやふさ

あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる

あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる

あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる
あやふさあやふさはさきよか能くさるる

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

侍従のききかた

清きるるふくまふるまね月よいのちを
人月の歌をみよふあふする月乎
あふるまねり月よいのちをみよふあふする月乎

月

清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

月

清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

八月十六夜

清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

八月十六夜

月とみよふ月あり清きるる月あり清きるる月あり

月とみよふ月あり清きるる月あり清きるる月あり

秋や清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

秋や清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

雲間月

照月のまふる月あり清きるる月あり清きるる月あり

望月

清きるる月あり清きるる月あり清きるる月あり

八月十六夜

月と今宵月あてやぞも老や未秋の夜中

願月

老けくさる月のやうと旅の床はぬる

月

世中ふらぬよの月と家さる人にくらり

唐月

せびりさるる月とまはるる月と六月の所

ありやれ月とくさる事と因縁とくさる家と

むらさきもやれ月とさる家と風もくさる影も

月とくさる人

人さるる月とくさる人さるる月と秋の夜月

月とくさる人

月とくさる人さるる月とくさる人さるる月

紅葉

時とくさる人さるる月とくさる人さるる月

月とくさる人

月とくさる人さるる月とくさる人さるる月

紅葉とくさる人

故里にさるる月とくさる人さるる月とくさる人

月とくさる人

秋更も寒く清き月、ふらふらわたりて、秋夜
持衣をとりて、

夜もくさむ月、秋の光、清き月、

葉は花をとりて、

ふらふら葉をとりて、

山路を葉

木葉は、垣のけしき、

時雨

も、垣のけしき、

も、垣のけしき、

藤人よ、時雨を、

ゆりて、

り路時雨

も、垣のけしき、

秋

秋は、も、

わ、

わ、

六、

十、

ふふふ月ふふふ中ふふふ秋ふふふ

時雨

照ふふふふふふふふふふふふふふ

時雨

ふふふふふふふふふふふふふふ

霜

ふふふふふふふふふふふふふふ

松霜

ひふふふふふふふふふふふふふふ

暮天霜

くくくくくくくくくくくくくく

雨庭霜

朝ふふふふふふふふふふふふふふ

女房もけ寒蘆もふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

雪

あふふふふふふふふふふふふふふ

雪

ふふふふふふふふふふふふふふ

雪

あゝ色も志ろそなれや山娘のまゝに神さしめ

を神祇

神さしめ田中女もののまゝ終るまゝを声き

古き秋月

晴れぬふく海く月影が流るの山よりさかりあり

果暮

あゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

祝

何と茂久人あやうやうと流るくまみれ新も苔の

臺

あゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

あゝ

うゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

逐夜増悪

あゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

待不来恋

あゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

あゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

あゝとらふ手あやうやうとわくわく春に

恋

おひにやういふるも、業も、後より、せの、を、し、
五月五日、恋も、あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

少将

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、
あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、

恋

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、
あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、

恋

あ、は、な、を、せ、て、ら、め、の、日、に、君、を、い、ふ、あ、は、な、を、
あ、は、な、を、せ、て、ら、め、

君より秋なる事 秋のふみふみ ありては 秋のふみふみ
人より秋の恋なる事 秋のふみふみ ありては 秋のふみふみ
ふみふみ

わうふひがねを建れとけま人もうひのうま
もうひのうま

とちわつふくはるけり
おな

[illegible]

如之惡

[illegible]

愛しむ人の心も
 愛する人の心も
 愛する人の心も

秋山ふんれりるるるのわきわき
 ありて、愛人三位入道よりるる

五志の心朽るむあてのまづわりのあふれ難くはなるて
不遇恋

ふみりて君をせむ人歩みほりてあふへり

戀

照月乃けふ、なぬきとて、うきまゐりておぬふ
みなり

[illegible]

夢ひけあそん
 序
 玉虎のわたり
 なましのふと
 夢か

花清かき窓も春の
わが光のそと

と方々を廻りてわぬ夜あけふうすけも
後羽意

わも先てわうもよりかはあまの詞のまじりて明の光
 近も遠慮を人々も信りて終るるあまの光
 西のけを我身よとてわうも六月もよれあまの光

湖

ふに海なる沖より波を起しきりひる風
山家とくも舟と人のまわりきり又

山ぬみふいひの寝覺ふくまぬの度ふくまぬ

龍泊

くまぬ寝のきりて曉へふきはあくるふ

龍

ゆきひのうはきくも山ぬみ神もきくも

野路

ひきくもきくもぬきくもきくもきくも

山ぬみきくもきくもきくもきくも

あきぬきくもきくもきくもきくも

おききくも

きくもきくもきくもきくもきくも

又

風もきくもきくもきくもきくも

眺る

むきくもきくもきくもきくもきくも

迷懷

きくもきくもきくもきくもきくも

おれきくも

きくもきくもきくもきくもきくも

又

其

春過く志川、麻衣、花、柳、さくら、さくら、さくら

葵

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら

早苗、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

梅、川、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

川、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

わつ、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

五月、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

船、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

は、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

五月、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら、さくら

あづくも申れつゝはゆるそへひのふらふ
らうひる中ふお月也

ちづれふるふらふ鉄はさるふひのふらふ

秋

七夕雲さふ中

そらふれ舟ははるてまうりふらふふらふれ

おら

ふらふひ夜ふらふらふらふらふらふらふ

又

天の川ふらふらふらふらふらふらふらふ

又

銀のふらふらふの舟ははるてまうりふらふ

ふらふふらふすじやう七月七日ふらふらふ

ふらふふらふ

うらふらふらふらふらふらふらふらふ

セジ

今ふらふらふらふらふらふらふらふ

ふらふらふらふらふらふらふらふ

ふらふらふらふらふらふらふらふ

秋ふらふらふらふらふらふらふらふ

秋

とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて

とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて

松雪

とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて
とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて

かよふとてこゝろ人將しうゐて

常盤の人の心もむかしは秋の夕風とわたりて
かよふとてこゝろ人將しうゐて
とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて

真遊

とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて
とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて

遊樂

とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて
とよも秋の夕風うきうきとわたりて
待候の云霞の秋の夕風とわたりて

公事

春のついで

春のついでいふをききし君をあらはしつゝも又いふを

秋

ひのきみもいふ月をいひりてさあめらばあけ

又

春秋のひきききて風のききぬをあらはしつゝ君を

鳥の首人よきなり鴨

まきまきなりききなり鴨をあらはしつゝ

百舌鳥

うみ花のききなりききなりききなりききなりききなり

萱

田舎のききなりききなりききなりききなりききなり

鷄

住むなりききなりききなりききなりききなりききなり

鷺

つらなりききなりききなりききなりききなりききなり

あきなりききなりききなりききなりききなりききなり

ききなりききなりききなりききなりききなりききなり

ききなりききなりききなりききなりききなりききなり

鳥

ききなりききなりききなりききなりききなりききなり

